

事務事業マネジメントシート(平成22年度実績と平成23年度計画)

平成23年10月13日更新

事務事業名		合志市地域公共交通計画実施事業				<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり			所属部	政策部	課長名	中村 誓丞
	施策	4	公共交通の充実			所属課	企画課	担当者名	坂井 竹志
	基本事業	12	公共交通の連携による利便性の向上			所属班	政策企画班	(内線)	1252
予算科目		会計一般	款2	項1	目11	事業連番11465	法令根拠	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律、道路運送法	成果優先度評価結果：② コスト削減優先度評価結果：④
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 22年度で終了 <input type="checkbox"/> 22年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 21 ~ 23 年度) <input checked="" type="checkbox"/> 期間限定複数年度		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】 (開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき策定した合志市地域公共交通計画に定めるさまざまな実証実験を、平成21年度から平成23年度までの3か年間に渡り、国の補助(1/2)を受けて実施する事業である。また、平成24年度からは市の単独事業として本格運行に移行することとしている。 平成21年度には循環バス、環状バス、温泉直行バス、乗り合いタクシー、パークアンドライドの実証実験を実施し、その実験結果に基づく新たな取り組みとして、平成22年度は循環バスと環状バスを組み合わせたコミュニティバス及び路線を絞り込んだ乗り合いタクシーの実証実験や、運行体制を強化するための小型バス(2台)の購入、熊本電鉄新須屋駅におけるパークアンドライド事業を継続して実施した。 平成23年度は、年間を通じたコミュニティバスの運行実験や乗り合いタクシーの実証実験を計画している。
【業務の流れ】	総合支援委託業務契約事務、協議会における平成24年度本格運行に向けたコミュニティバスや乗り合いタクシーの再編及び利用促進策などの審議、運輸局への路線変更申請、啓発用ポスターやチラシの作成配布及び各地区への出前講座等による説明、実証実験進行管理(事業者による実績報告や協議会への経過報告など)、実績に基づく運行委託料支払事務
【主な予算費目】	職員手当、需用費、役員費、委託料
【意見や要望】 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	<ul style="list-style-type: none"> 市議会において、合志市の交通に関する全体構想をまとめる必要があるという意見があった。また、パブリックコメントにおいても、公共交通機関の整備に期待を寄せる意見があった。 レターバス運行ルート上で医療機関が多い菊陽町新山地区へのバス停留所設置の要望が多い。 須屋地区へのレターバス乗り入れを求める要望がある。 レターバス運行によりタクシー利用者が減り、収入が減ったというタクシー事業者からの苦情がある。

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分
① 手段(主な活動) 22年度実績(22年度に行った主な活動)(DO)	23年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN)	
循環バスを再編し、環状コース(レターバス)を追加したコミュニティバスやレターバスへの結節運行を目的とした乗り合いタクシーの実験運行を行なうとともに、コミュニティバスや乗り合いタクシーの啓発活動を行なった。また昨年度からパークアンドライドの実証実験を継続実施した。	コミュニティバスの再編及び事業形態を見直した乗り合いタクシーの実証実験や、熊本電鉄新須屋駅におけるパークアンドライド事業の継続実施を予定している。	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)	予算の主な増減の理由
→ ア 計画された実証実験事業の件数	件	平成22年度当初予算が骨格予算だったことによる増
イ		
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	公共交通事業(実証実験)	② 対象指標(対象の大きさを表す指標)
		(単位)
		→ ア 公共交通事業(実証実験)
		イ 件
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	円滑に実施される	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)
		(単位)
		→ ア 計画された公共交通事業の実施件数
		イ 件
*③成果指標設定の理由と23年度目標値設定の根拠		
計画された公共交通事業が円滑に実施されたかを指標とした。目標値は未実施の実証実験である「行事別乗り合いタクシー」と「企業通勤バス共同運行」の2つを実施する予定で設定した。		

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	20年度実績(決算)	21年度実績(決算)	22年度目標(当初予算)	22年度実績(決算)	23年度目標(当初予算)	24年度予定	25年度見込	総トータルコスト 全体計画 ~23年度 (期間限定複数年度のみ記載) 87,091	
① 活動指標	ア 件	0	10	10	10	10	10	0	0		
	イ										
② 対象指標	ア 件	0	10	10	10	10	10	0	0		
	イ										
③ 成果指標	ア 件	0	7	8	8	8	10	0	0		
	イ										
投資入費量	財源内訳	国庫支出金	千円								
		都道府県支出金	千円				1,302	1,300			
		地方債	千円								
		その他	千円		7,128	1,000	9,656	10,000			
		繰入金	千円								
	一般財源	千円		8,961	5,962	58,593	36,826				
	(A) 事業費計	千円	0	16,089	6,962	69,551	48,126	0	0		
人件費	(A)のうち指定経費	千円	0	0	234	22	48	0	0		
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	93	234	22	48	0	0		
	(B) 人件費計	千円	0	5,174	4,776	5,961	4,944	0	0		
トータルコスト(A)+(B)	千円	0	21,263	11,738	75,512	53,070	0	0			

事務事業名	合志市地域公共交通計画実施事業	所属部	政策部	所属課	企画課
-------	-----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (SEE) *原則は22年度の後評価、ただし複数年度事業は22年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①22年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】
	②23年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはしているのか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 「職場モビリティ・マネジメントの実施」については、セミコン周辺の交通渋滞を解消するため計画していたが、不況による従業員削減や県による交差点改良事業により渋滞状況が緩和されたため、企業による取り組みも現在は進んでいない。今後は県菊池地域振興局を事務局とした菊池南部地域交通混雑対策検討会において、企業・自治体との意見交換を行い事業実施へ向けた取り組みを強化していく。
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになっていないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 本事務事業は平成23年度を持って終了するため。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他の方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市が策定した合志市地域公共交通計画に基づき実施している実証実験であるため、類似事業との統廃合・連携はできない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 実証実験に係る事業費(運行費)については、運行体制(便数)の整理や、運賃収入の増加により削減ができる。
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 より事業の成果を上げようとするれば、業務時間は増大する、現在は、必要最小限の人員で担っているため、削減の余地はない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 実証実験は全市民を対象としており公平である。しかし、運行経費に対して料金設定が適正であるか問題があるため、実証実験が終了する平成24年度以降の料金設定について検討する必要がある。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 他自治体においては地域住民やNPOが主体的に地域公共交通事業に取り組んでいる事例もあるため、先進的な取り組みを研究する必要がある。

3 評価結果の総括 (SEE) *事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

「企業通勤バス共同運行」については、平成21年度より県菊池振興局を事務局とした菊池南部地域交通混雑対策検討会が発足した。大津西合志線における交差点改良(3箇所)や不況による従業員数減により渋滞状況が緩和されたため、事業に進展が見られない状況であるが、平成23年3月に検討会が行なわれ、今後も交通混雑の現状報告や企業・他自治体との意見交換を行なう予定である。
また、広域的な課題に対しては近隣自治体との連携を図りにくいため、県にその役割を果たすよう求めていく必要がある。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input checked="" type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p> <p>(効率性改善) 実証実験に係る事業費(運行費)については、運行体制(便数)の整理や、運賃収入の増加により削減ができる。</p> <p>(公平性改善) 運行経費に対して料金設定が適正であるか問題があるため、実証実験が終了する平成24年度以降の料金設定について検討する必要がある。</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上	○																				
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p> <p>事業費削減案として、利用者数の増加(運賃収入の増加)をあげたが、現行運賃(1乗車100円)で利用者が倍増したとしてもその削減効果はわずかである。 平成24年度本格運行へ向けた周知啓発活動を強化し、利用者を増やす取り組みとともに、運賃設定の考え方などを地域公共交通協議会で検討する必要がある。</p>																						